

特別号

★12・13号、合併特別号 1～8面すべて「地域自治組織支援」特集記事

特集「伊達市・地域自治組織立レポート」その1・10.21 第3回代表者及び事務局長会議より 29 エリア中 22 の地域自治組織が設立され活動開始！（2015.7 末現在）

各地区「上半期4～9月取組状況」を収集 情報交換を通し課題への共通認識向上を図る

伊達市の「地域自治組織事業」は平成27年4月に本格始動。この7月末には構想29エリア中22地区で地域自治組織が事業展開するまでに至っています。そこでモデル事業以来、地域自治組織づくりをサポートしてきた「支援センター」の視点から、この事業の経緯と今後の課題や見通しをレポートします。

まず本格始動から半年を経過した去る10月21日、所管部署の市民協働課は「第3回地域自治組織代表者及び事務局長会議」を招集しました。

参集した地域自治組織からは事前に上半期の取組状況が行政サイドに提出されており、会議では旧町を代表する形で、5地域自治組織が報告しました。参集した関係者はこの5人の報告と、会場で配布された資料から、地域自治組織には地区を越えて共通する課題とその地区特有の課題が並存することを、あらためて認識することができました。

9月豪雨で自主防災の重要性を再確認 28年度予算見通せず事業計画立案に苦慮

10.21の会議で多くの意見が出された1つが「9月豪雨」への対応でした。地区交流館は地域自治組織の拠点施設ですが、同時に市の指定避難所となっている関係で、豪雨発生時の9月10日11日は地域自治組織関係者が、交流館での対応を余儀なくされたからです。「山舟生自治振興会」は広報紙でその詳細をレポートしていますが（右写真）、あの時を振り返り、会議で指摘されたことは、いざというときの「自主防災体制」がいかに心もとないという現実でした。

また平成28年度を考えた時、地域自治組織への交付金はどうなるか、行政から見通しが示されていない現状では、次年度計画が立てられない何とかしてほしいという切実な要請も出されました。

一方では「生涯学習講座等、社会教育に関する教育委員会の支援を強化してほしい」「交流館に図書を置きたい」等、拠点活動活性化へ向けた積極的な要請事項も数多く出され、関係者の、次年度への意欲を感じさせる会議でした。



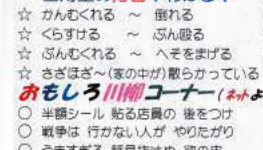
写真は地域自治組織の運営スタートを報じる「伊達西部地区自治協議会」の広報紙（左）と10月21日保原市民センターで開かれた「第3回地域自治組織代表者及び事務局長会議」の様相。



山舟生自治振興会広報「みてくーなんしょ 第16号」（10月1日発行）オモ予面でも地区大運動会をレポート。ウラ面では9月の豪雨災害が残したツメ跡、今後の課題について詳しく報告している。



(11区・鹿野新田農道流し八部橋の破損)



(10区・農村広場・高橋橋の農道下が崩落)

「台風17,18号について」

自治振興会 事務局長 佐藤崇栄
 4月から自治振興会の事務局を担当して改善できたところもありますが、改善できない場しなければならぬことなど多くの課題が山積しております。いろいろな条件の中で運営することは大変難しいことだと思いますが、今後も役員をはじめ関係者の協力を得ながら、多岐にわたる課題を一つ一つ取り組んでいきたいと思います。

この度の台風17・18号による大雨被害について述べたいと思います。山舟生地区も建物の損壊など大きな被害が発生しました。被害者の皆様にも心よりお見舞い申し上げます。気象庁・アメダスの予測で東北地方にも影響がありそうなので、自治振興会では会長を中心に役員と事務局で体制を組みました。自治振興会としては初めての防災への対応で手探り状態の体制でしたが、早めの行動と防災等の情報の窓口になることを基本的な考えとして体制をとることにしました。まず初めに大雨により土砂災害が予想されるため伊達市と相談して明るいうちに避難所を開設しました。各戸への周知は、八幡町町内会長と相談して各地区の町内会長から各戸に周知していただきました。交流館等に48人の方々に避難していただきました。また、消防団長はじめ各種団体役員からの被災情報と取りまとめると同時に同時に関係機関に連絡して必要な対応をとってもらうようにしました。9月15日現在100件以上の被災情報を載っており、地区の中で緊急性の高い場から順に対応していただくよう関係機関にお願い致しました。今回初めての体制を組んでみて、消防団の積極的で献身的な対応や地区の皆で道路や水路の土砂の撤去など多くの活動に大変感謝しております。しかし、自主防災組織の体制、各町内会に温度差があること、避難所の対応、伊達市との役割分担など多くの課題も見ることができました。今後検討し改善していく必要がありますので、引き続きご支援ご協力をお願い致します。

【記事の訂正】
 第16号(9/1)の「まゆでフクロウ制作」の中で「地域創生総合支援事業(74→事業)を農村女性活動再生事業に訂正致します。」

編集後記
 彼岸を過ぎ、一気に秋の気配が漂ってきました。田んぼでは米の収穫が始まり、それが終わると恒例の芋煮会が開かれ、あちこちから美味しい匂いがただよってきます。ここでビールや酒がまたうまい。この山舟生の良さは、みんな明るく冗談好きで親切なこと、女性もキレイで関東から移住して6年の実感！

発行・山舟生自治振興会 総務企画部広報委員会 〒960-0703伊達市梁川町山舟生字坊前18
 山舟生地区交流館 ☎fax(024-577-5489)